

◆◆◆ 気象庁庁舎移転後の新しい露場を選定

― 東京の観測地点は大手町から北の丸公園へ ―

気象庁（東京管区气象台）では、気象庁本庁庁舎（東京都千代田区大手町）の敷地内にある露場（観測場所）で気象観測を行っていますが、平成25年度に予定されている気象庁庁舎の港区虎ノ門への移転に伴い、地上観測の露場の場所を「北の丸公園」（東京都千代田区）に移動することになりました。

気象庁の敷地一帯は、平成19年6月の「国有財産の有効活用に関する検討・フォローアップ有識者会議」（財務大臣主催）の報告に基づき再開発が行われ、気象庁の庁舎は平成25年度を目途に大手町から虎ノ門への移転される運びとなりました。

東京の気象観測は、明治8年6月1日に都内赤坂（葵町、現在のホテルオークラの敷地内）にて開始され、明治15年には皇居旧本丸北桔橋付近に観測場所が移され、その後大正12年には旧麹町区元衛町（中央气象台の敷地内）へ、昭和39年に現在の大手町（気象庁の敷地内）に移り現在に至るまで、130年間以上にわたり竹橋付近のほぼ同一地域で実施されてきました。気候変化の監視等には、同一地域での継続が大変重要であり、気象庁では、庁舎移転後も気象観測に必要な環境の確保や観測の継続維持などを考慮し、北の丸公園に露場を移すことが適切であるとし、関係機関との折衝を行ってきました。同公園は環境省が管理しており、移転にあたっては気象庁では環境省との連携のもとに進めていくこととしています。なお、北の丸公園の露場には、自動観測装置とともに、公園内にふさわしい観測値の表示盤や関連の展示施設の設置も検討されています。

（気象庁のホームページに加筆）